

社員が怪我!! 疲労が原因?

正月も醒めやらぬ1月4日3時30分頃、構内操縦担当で作業中にA社員が名古屋車両所電留18線1号車の昇降台から転落するという事象が発生しました。

その転落したA社員は普段から生真面目で、QC・会社の行事・所内誌の編集等々で度重なる残業や勤務変更による疲労困憊の中での転倒で、この日は始業前から「この頃、妙に体が疲れる、体がだるい」と零していた矢先の転落でした。

また、現場の多くの社員のは「冬期の深夜は、安全通路のセメントの表面が凍って滑りやすく転んだこともある」、「暗い場所が多くて、転びそうになった」、「構内操縦者なら、一度や二度は経験している」という声が沸き上がっています。

怪我をした社員を遅くまで事情聴取!

怪我をしたA社員は、早朝に管理者と共に病院に行き、たいした怪我では無かったことが明らかになりました。管理者はA社員がたいした怪我で済んだと診るや即刻事情聴取を開始し、一旦昼頃に社員を帰しました。しかし管理者は納得できなかったのか?、帰路途中のA社員を再度呼び戻して、夕方近くまで事情聴取を行ったのです。

その会社の姿勢についても、現場社員の間からは「事情聴取は何時でもできる。怪我をしたA社員の体を気遣い即刻、帰すべきではないか」、「会社は現場社員の体よりも、自分たちのメンツしか考えていないのではないか、本当に冷たい会社だ」、「昇降台は約160cmの高さがあるって転倒して打ち所が悪ければ命に関わる。隣接線路に通過列車がいなかったことが幸いだ」、「点呼で『不祥事』とは、いかがなものか」、「人事異動を前にして、管理者の自己保身だ」という、管理者に対する不信感が現場社員の間からは沸き上がっています。

このA社員は、生真面目さ故に、「冬の深夜の電留線の安全通路や昇降台が凍るために、自分以外の乗務員が転ばないようにと思って」の心遣いから管理者に報告をしたのです。

お正月も、お盆も、昼も、夜も、関係なく額に汗して奮闘している現場社員のみなさん!!
職場で働く社員が「健康」で「安心」して働ける職場に、職場で働く社員の家族が社員を安心して職場に送り出せる職場に作り替えていこうではありませんか!!
社員と、その家族の幸せのために!